

報道関係者各位

秩父宮ラグビー場株式会社
(以下、出資企業)
鹿島建設株式会社
三井不動産株式会社
東京建物株式会社
株式会社東京ドーム

都心・神宮外苑地区に誕生、国内初の屋内全天候型多目的ラグビー場
「新秩父宮ラグビー場(仮称)整備・運営等事業」着工
トップパートナーは三井住友フィナンシャルグループ
「秩父宮ラグビー場」の名は継承し、副名称は「SMBC Olive SQUARE」に決定。

本リースのポイント

- ・「新秩父宮ラグビー場」が2026年2月3日に着工。2030年に開業予定。
- ・4駅4路線が利用可能な都心好立地に、国内初の屋内全天候型多目的ラグビー場
(ラグビー開催時:約1.5万人収容)が誕生。
- ・多彩な観戦体験を支える環境を整備し、ラグビーの試合に加え、音楽コンサートを中心とした各種イベントの
開催も予定。(イベント時:約2.5万人収容)
- ・トップパートナーとして三井住友フィナンシャルグループが決定。

鹿島建設株式会社(本社:東京都港区、代表取締役会長兼社長:押味至一)を代表企業として、三井不動産株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:植田俊)、東京建物株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長執行役員:小澤克人)、株式会社東京ドーム(本社:東京都文京区、代表取締役社長COO:長岡勤)の4社が構成企業となる「秩父宮ラグビー場株式会社」は、東京都新宿区において収容人数約1.5万人(ラグビー開催時)、約2.5万人(イベント時)の屋内全天候型多目的ラグビー場である「新秩父宮ラグビー場」を2026年2月3日に着工したことをお知らせします。

本施設はラグビーの聖地として長年親しまれてきた現秩父宮ラグビー場の歴史と想いを継承し、引き続きラグビー場として利用されるほか、さらなる発展を見据え、音楽コンサート、スポーツイベント、企業の展示会などの様々なイベントに対応可能な施設として整備し、I期工事完了後の2030年に開業を予定しています(その後のII期工事にて南側広場の整備を行う予定)。

また、この度、歴史を継承しながら新たなラグビー場とともに歩んでいくトップパートナーとして、三井住友フィナンシャルグループ(以下「SMBCグループ」という)が決定しました。

さらに、歴史ある「秩父宮ラグビー場」の名と併用する、副名称は「SMBC Olive SQUARE」に決定いたしました。竣工までの期間から運営開始後に至るまで、トップパートナーであるSMBCグループと協力しながら、皆さんに長く愛される施設を目指し、さまざまな取り組みを行ってまいります。



外観イメージ

1. 本プロジェクトの特徴

本施設は、地上 8 階地下 1 階建・延床面積約 73,000 m²、収容人数ラグビー利用時約 1.5 万人、イベント開催時最大約 2.5 万人の、都内でも有数の好立地に位置した屋内全天候型多目的ラグビー場です。本事業は「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI 法)に基づき行われ、事業者は施設等の設計、建設を行った後、独立行政法人日本スポーツ振興センター(以下「JSC」という)に本施設等の所有権を移転すると同時に本施設の公共施設等運営権を取得し、30 年間の運営・維持管理を行います。

① 歴史性・場所性を尊重した計画

神宮外苑地区の都市計画を踏まえ、競技施設エリアと接する東側の円周道路を「静かな賑わい軸」、西側のスタジアム通りを「活気ある賑わい軸」と読み解き、神宮外苑地区と調和したネットワークを形成します。屋根の高さを抑え、軒高を MUFG スタジアム(国立競技場)や明治神宮聖徳記念絵画館と同程度とし、また上部を垂直方向に細かく分節した傾斜屋根とすることで、圧迫感を感じさせない外観デザインとっています。現在の秩父宮ラグビー場建設時の観客席デザインを継承する弓なりの大屋根が感動を包み込みます。

② 最高のラグビー環境の実現

日本初の屋内全天候型ラグビー場として、ラグビーの国際大会等の開催が可能な施設水準で約 1.5 万席を計画します。東西スタンドを均等にした「ダブルメインスタンド」と、フィールドコーナー部から試合を体感する観客席「ラグビータワー」、フィールドと同レベルの観客席「フィールドバー」等の快適で多彩な観戦体験を支える環境を整えると同時に、観客に包まれる感覚が選手に最高の高揚感を提供します。

環境面では『LEED GOLD®』や『ZEB Ready』取得を予定しており、世界トップクラスの性能を目指すとともに、ユニバーサルデザインの導入や ICT 技術の活用などで誰もが使いやすく人にやさしい計画とっています。



ラグビー利用時



ラグビータワー



フィールドバー



VIP ラウンジ

③ 感動のエンターテインメント空間

ラグビーの試合はもちろん、ライブ・コンサートを中心とした各種イベントの開催が可能。50m × 12m の大型ビジョンを設置し、多彩な演出を行うとともに、一つ一つの座席も前後左右のゆとりをしっかりと確保することで感動のエンターテインメント空間を創出します。約 2.5 万人規模の屋内全天候型多目的ラグビー場で、都心に位置することから平日の来場も容易となっており、国内外トップクラスのアーティスト公演によるエンタメの中心地となることを目指します。



音楽コンサート利用時



展示会利用時

④ 緑に囲まれたにぎわいの外構

南側開口部を開放することによりフィールドから南側広場(Ⅱ期工事で整備)まで連続した空間を創出するなど、どこからでもアクセス可能な新たな秩父宮ラグビー場は、隣接するMUFGスタジアム(国立競技場)や明治公園と連携しながら、神宮外苑地区全体のにぎわいを創出していく予定です。

また、敷地内の存置樹木を最大限保存するほか、外苑創建時に植樹された樹種から敷地内に植樹する新植樹を選定し、神宮外苑地区の良好な緑地の形成を図ります。また北側には日本スポーツの歴史や価値を発信する博物館機能を設け、周辺の文化施設と連携した文化交流の拠点とします。



鳥瞰



北東側外観

2. シンボルについて

新秩父宮ラグビー場の開業に向け、新しいシンボルを作成いたしました。

① シンボル名

～Scrum Arch スクラムアーチ～



② シンボルコンセプト

デザインの基調は、新たな秩父宮ラグビー場入り口のファサードが描く、優美な曲線です。並び立つ柱が、スクラムを組む選手たちを想起させます。柱の間に浮かび上がる5つの空間は、ラグビーボールを象るとともに、夢の舞台へのゲートでもあります。そこにはラグビーが誇る5つのコアバリュー、品位・情熱・結束・規律・尊重が宿っています。並び立つアーチは、感動と夢が波紋のように広がる様子を描いています。ここが、誰かの夢が叶い、また新しい夢がはじまる「WHERE DREAMS PLAY」の舞台であることを宣言するシンボルです。

3. トップパートナー・副名称決定

① トップパートナー

日本を代表する金融機関であることはもちろん、スポーツ、特に「ラグビー」へのスポンサーシップ、また環境に対する取り組みもこれまで多大なる実績をお持ちであるSMBCグループが、新しい秩父宮ラグビー場のトップパートナーに決定いたしました。

② 副名称

SMBC Olive SQUARE

新しい秩父宮ラグビー場の副名称は「SMBC Olive SQUARE」に決定。多くの方に愛されてきた「秩父宮ラグビー場」の名称は継承しつつ、SMBCグループの挑戦の精神を象徴する「Olive」と、多くの人々が集い、スポーツ・エンターテインメントを通じて次世代に向けた新しい体験に出会える「広場(SQUARE)」にしたいというSMBCグループの思いが込められています。※ロゴ・フォントについては今後変更可能性があります。

副名称とは？

副名称は、正式名称「新秩父宮ラグビー場※」とは別に PFI 事業において事業者の安定的な施設運営と魅力向上を図る観点から、ネーミングライツとして付与が認められています。正式名称の使用はもとより、ラグビー場の多様な利活用の場面に応じて副名称も使用してまいります。

※「新秩父宮ラグビー場」は現時点の仮称となります。

※「SMBC Olive SQUARE」という名称は 2030 年 5 月(予定)の施設運営開始日より効力発生となります。

③ SMBC グループ 取締役 執行役社長 グループ CEO 中島達様

ラグビーの聖地である秩父宮ラグビー場が、新たな一步を踏み出すこの大きな節目に、トップパートナーとして伴走できることを光栄に存じます。

我々 SMBC グループは「最高の信頼を通じて、お客さま・社会とともに発展するグローバルソリューションプロバイダー」をビジョンに掲げており、金融という殻に捉われず、お客さまや社会のお役に立つために挑戦し続ける、先進的なグループであり続けたいと考えています。

今回は、我々の先進的な取組や挑戦の姿勢をより多くの皆さまにお届けできる絶好の機会と捉え、本パートナー契約を締結しました。

ラグビー憲章のコアバリューは、当社の役職員共通の価値観である「Five Values」と相通じるものであり、ラグビーの精神はビジネスでも重要であると考えています。我々 SMBC グループは、伝統を受け継いだうえで進化する新秩父宮ラグビー場のトップパートナーとして、本施設にご来場いただいた皆さまにリアルな観戦体験をお楽しみいただくとともに、新たな出会いや感動をお届けし、多くの挑戦が生まれる場づくりを進めてまいります。

SMBC グループ 特設サイト

<https://www.smbc.co.jp/sponsorship/rugby/smbc-olive-square/>

4.事業者・事業関係者の想い

鹿島建設の想い

～人の思いと技術を繋ぐ～

鹿島は、「人の思いと技術を受け継ぎ、想像と感動をかたちにするために新しい発想で挑戦しつづける」という当社グループのビジョンステートメントのもと、社会に貢献する企業であり続けることを目指しています。

2030 年、神宮外苑という歴史と文化が息づくこの地に新しい秩父宮ラグビー場が誕生します。当社は、長年「ラグビーの聖地」として、数多くの感動や名勝負を生み出してきた現秩父宮ラグビー場の施工者として、その歴史の一端を担ってまいりました。本事業では、設計・施工のみならず、運営・維持管理にも携わる事業者として、ユニバーサルデザインや環境への負荷低減と利用者のウェルネス・快適性を追求するとともに、「ラグビー・スポーツ振興の精神」を継承し、皆様に永く愛され、夢と感動をお届けできる、国際的にも高く評価されるスタジアムの創造を目指します。関係者の皆様とともに、安全・品質を最優先に新秩父宮ラグビー場の建設に取り組んでまいります。

三井不動産グループ(三井不動産・東京ドーム)の想い ～「スポーツ・エンターテインメントの力」を活用した街づくり～

三井不動産は、2024 年 4 月に策定した長期経営方針「& INNOVATION 2030」において、「新たなアセットクラスへの展開」を事業戦略の一つとして掲げており、スポーツ・エンターテインメントの力を活用したリアルの体験価値を最大化する街づくりを目指しています。

そしてこの度、新秩父宮ラグビー場が誕生します。日本を代表するスポーツクラスターである神宮外苑地区まちづくりの中でも最初に着工する物件となり、ラグビーの聖地として知られる「秩父宮ラグビー場」の想いを継承しながら新たな夢へとつないでいく計画となっております。

当社の強みは、リアルな『場』を通じて、お客さまと多面的な接点を持ち、リアルの体験価値を生み出す『コンテンツ』を展開できることです。ラグビーの魅力を最大限に引き出し、試合を通じた新たな熱狂や感動を生み出していくことを目指すとともに、屋内全天候型多目的ラグビー場という特性を活かし、年間を通して音楽コンサートをはじめとする各種イベントを開催、三井不動産グループとしても東京ドーム社のノウハウを活かし運営を行ってまいります。都心における 2.5 万人規模の施設ということで、今後の日本におけるスポーツ・エンターテインメントの中心を担う施設にしていきます。

今後も、東京ドーム含む三井不動産グループは、スポーツ・エンターテインメントの力を活用した街づくりを通じて社会の付加価値の創出に貢献してまいります。

東京建物の想い ～地域と世界をつなぐ、新秩父宮ラグビー場の未来～

東京建物は、2030年を見据えた長期ビジョン「次世代デベロッパーへ」において、事業を通じて社会課題の解決と企業としての成長をより高い次元で両立し、すべてのステークホルダーにとっての『いい会社』を目指しています。また、中期経営計画(2025-2027年)では、スポーツ・エンターテインメント、ウェルネス・ウェルビーイングなどの領域における「新規事業の確立」を重点戦略の一つと位置付け、「場の価値と体験価値の創出」などをテーマとした事業開発に取り組んでいます。

今般、その一環として、新秩父宮ラグビー場では新たな体験価値を創出し、試合の日だけでなく日常から人々が集う空間へと進化させることを目指します。また、新秩父宮ラグビー場を世界に誇れるラグビー文化の発信拠点とし、スポーツの力で東京を躍動させる、それが私たちの目指す姿です。

さらに、新秩父宮ラグビー場に隣接する都立公園初のPark-PFI事業「都立明治公園」の開発・運営で培った地域との絆を活かし連携することで、子どもから大人まで幅広い世代が楽しめるイベントや体験を提供し、地域・企業・ファンが一体となるコミュニティを形成し、地域の活性化に貢献するとともに、こうした取り組みを基盤に、多様なパートナーとともに新しい価値を世界へ発信することで、国際都市東京のウェルビーイングな魅力向上に貢献してまいります。

■独立行政法人日本スポーツ振興センター

新たな秩父宮ラグビー場は、これまでの歴史を引き継ぎ、ラグビー競技の利用を最優先としつつ、多くの皆様に親しんでいただけるラグビー場となるよう、多様な事業や質の高いサービスの提供が期待されます。今回のトップパートナーの選定もその一環だと存じます。

秩父宮ラグビー場株式会社におかれましては、PFI事業を着実に進められ、この度着工に至りましたことに敬意を表しますとともに、今後とも、ラグビーファンをはじめ、多くの国民、都民の皆様に愛され、親しまれるラグビー場の実現に向けて、更なる活躍を御期待申し上げます。

■(公財)日本ラグビーフットボール協会

今年で設立100周年を迎える日本ラグビーフットボール協会では、「ラグビーが世界一身近にある国へ」をミッションに掲げ、ラグビー関係人口の拡大、競技力の向上、ラグビーを身近に感じる社会環境およびラグビーが社会に貢献する存在となること等を目指して、日々の活動に取り組んでおります。

ラグビーの聖地として歴史が継承される新しい秩父宮ラグビー場が、多くの観客の皆さまがラグビーに熱狂し、感動し、新たな体験をする場となることを期待し、当協会では引き続きラグビー競技のさらなる普及と発展に努めてまいります。

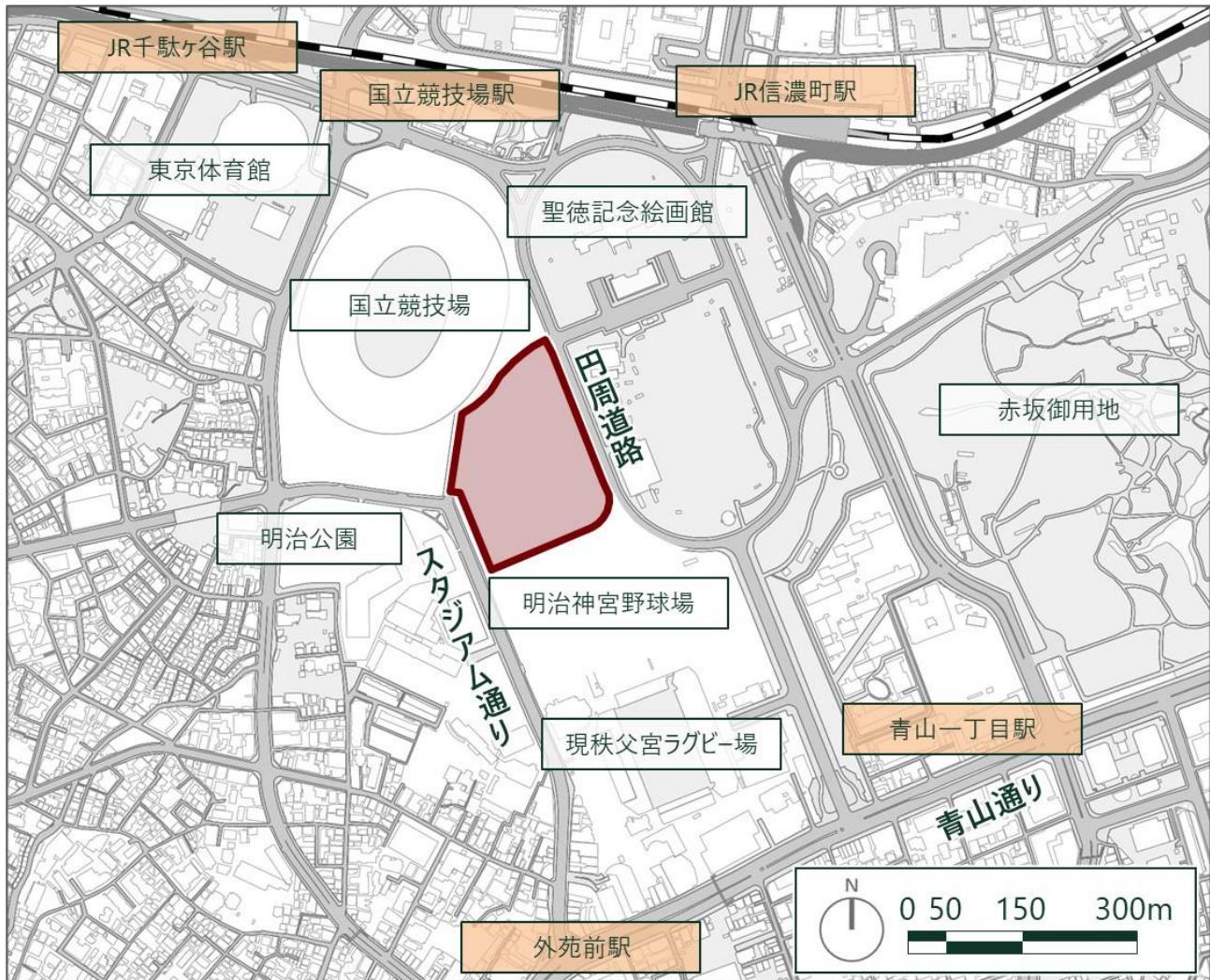
5.事業概要

所在地	東京都新宿区霞ヶ丘町3番2号
敷地面積	新ラグビー場計画敷地:34,437.54 m ² ※第Ⅱ期整備後:43,476.27 m ²
延床面積	72,957.17 m ²
高さ	46.25m(地上8階・地下1階)
構造	地上:柱RC造、梁S造(一部CFT造、S造) 地下:RC造(一部CFT造)
発注者	独立行政法人日本スポーツ振興センター
設計者	鹿島建設・松田平田設計 設計共同企業体 設計協力:内藤廣建築設計事務所、POPULOUS
施工者	鹿島建設

本施設のウェブサイト

<https://www.chichibunomiya-stadium.jp/>

6. 位置図



※本リリースに掲載されているイメージは、今後の検討・協議により、計画内容が変更となる場合があります。

※本リリースに掲載されている外観イメージはⅡ期完成時のものとなります。

《参考》

■神宮外苑地区まちづくりについて

「神宮外苑地区まちづくり」は、歴史と緑豊かな環境を継承しつつ、世界に誇るスポーツ・文化・賑わいの拠点の創出を目指しています。

スポーツの聖地として多くのファンに親しまれてきた「秩父宮ラグビー場」や「神宮球場」等の歴史あるスポーツ施設を、スポーツ競技開催の継続性に配慮しながら段階的に整備を進める計画であり、「新秩父宮ラグビー場」は最初に着工する施設となります。

〈神宮外苑地区まちづくりの意義〉

- ・大規模スポーツ施設の競技の継続および老朽化への対応
- ・4列のいちょう並木など景観の保全
- ・広場等のオープンスペースの拡充・地区内の回遊性の向上
- ・広域避難場所としての防災性の向上 等

詳細は「神宮外苑地区まちづくり」公式ウェブサイトをご参照ください。

<https://www.jingugaienmachidukuri.jp/>